

主催者あいさつ

大会実行委員長 21世紀臨調共同代表 茂木友三郎

それでは、ただいまより政権公約検証第1回大会を開催することを宣言させていただきたいというふうに思います。

初めに、本日の政権公約検証第1回大会の開催に当たり、大変お忙しい中を各界から多数の皆様にご来場いただきましたことを、本大会を主催いたします21世紀臨調を代表し、また本大会の実行委員長といたしまして、厚く御礼を申し上げる次第でございます。また、主催者である21世紀臨調の呼びかけにこたえ、本日の大会にご参加をいただきました日本経団連、経済同友会、連合、全国知事会政権公約評価研究会、日本青年会議所、言論NPO、構想日本、そして日本総研の皆様にご改めて御礼を申し上げますとともに、本大会の開催趣旨をご理解いただきまして、大会へのご協力と出席をご快諾くださった自民党、公明党、民主党の政調会長の皆様に対し、感謝の意を表する次第でございます。

我々21世紀臨調は、ご承知のように、経済界、労働界、学識者、ジャーナリスト、知事、市長、NPO関係者など、国民各界の有志で構成され、政治を変え、日本を変えるために活発な提言活動を展開いたしております。我々の活動のスタンスは、あくまでも不偏不党であり、党派を超えて改革を目指そうとする政党・政治化と交流しながら、日本政治のあるべき姿について議論を重ね、国民の立場から政治改革を後押しすることを目的といたしております。昨年総選挙において、21世紀臨調は、政党政治のサイクルを再構築し、国民に信頼され得る責任と実行力のある政治指導体制を確立するため、政権公約、すなわちマニフェストの導入を提唱致しました。

幸い、昨年総選挙では、政権を目指す各党がそれぞれ真剣に政権公約を作成し、マニフェスト元年とでもいふべき総選挙を実現することができたのであります。我々は各党によるこの試みを、政治を改革するための第一歩として高く評価すると共に、この試みを更に定着させ日本政治を変える本物の流れにしていきたいというふうに考えております。

政権公約は政党を建て直し、責任ある政党政治のサイクルを形成するための手段であります。重要なことは総選挙で勝利した与党が国民に約束した政権公約に基づいて責任ある実行体制を確立し政策を実現すること、そしてその実行プロセスや達成度を内閣与党がその説明責任を果たして自己評価をすると共に、マスメディアやシンクタンク、国民各層の側も検証・評価を行い、次の総選挙における国民による政権選択へとつなげていくことでもあります。

我々はこうしたマニフェストサイクルを確立するためには国民的な運動が今こそ必要であるということを強く認識し、本日の大会を企画した次第でございます。

本日の大会は具体的には次の5つを目標といたしております。すなわち第一に国民各界が時期を統一して概ね予算成立後の通常国会終盤の時期に、内閣による政権公約の達成状況を定期的に評価する仕組みを構築すること。第二にこのことを通じて国政選挙において有権者が投票を行うための判断材料の提供に努めること。第三に政党自身による検証評価作業を更に活性化させ、政党が国民に対し情報公開と説明責任を果たす機会を積極的に創造すること。第四に、開催を通じて、政党と国民各界が毎年、政権公約のあるべき姿について意見交換を行う機会を作り、政権公約を定着させるための基盤整備に努めること。そして、第5に国民各界の側も評価という営みを通じて、これまでの政治との関わり方を見直し、政治のプロセスや政策を評価する技量の向上に努めること、ということでもあります。

以上の5つが本大会の目標である、というふうに思っております。国民各界が内閣与党による政権公約の達成状況を検証、評価し、その結果を時期をそろえていっせいに公表するのは、日本の政治史上はじめての画期的な試みである、というふうに思っております。もとより、今回は、第1回の大会でございますから、混乱も予想されまじ、不十分な点多々あるかも知れません。しかしながら、こうした試みが国民の側から始まったという事の歴史的な重みとその意義を是非ご理解いただきたいと思うのでございます。主催者と致しましては、本大会の運営に全力をあげるとともに、本大会を出発点と致しまして、毎年の定期的な開催を目指したいというふうに考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。